

論点ペーパーに関し、第1回検討会で出た主な意見

これからの介護労働安定センターの役割	意 見
国の代替機能	介護労働安定センターがパッケージとして行う業務は他に代替できないものなので大枠は維持していただきたい。
専門性の向上	様々な実施機関との関係を整理し、介護労働安定センターが独自に何を実施していくべきなのか考える必要がある。
地域における関係機関との連携	介護労働安定センターが定期的に介護に関する今後のビジョンを語る場を設けることはできないか。
	介護労働安定センターのサービスを受けた労働者同士、事業者同士のネットワークを作り、継続的な学びの場所とし将来のコンサルタントや講師を生み出し事業を効果的に展開。
人材の発掘	介護労働安定センターは多くの人材を介護市場に送り込んできた。「人材の発掘」を「これからの介護労働安定センターの役割」に乘せるべき。
	高校、専門学校、ハローワーク、事業所と連携したアプローチで介護業界の人材確保に貢献することもできるのではないか。
その他	介護労働者は2025年までに現在の倍程度増やす必要があり、これから10年程度が一番大切な時期。今後介護労働安定センターが何をしていくべきか考えることが重要。
	介護人材の不足はもう起きている。介護労働安定センターをどう位置づけ、どのような事業展開を行うべきなのか考えるべき。
	事業間の関係性について整理。たとえば事業所訪問や介護労働実態調査を通じた介護労働安定センターの情報収集機能は情報提供や研修の際活用されているか各事業の有機的連携について考えていく必要がある。